

人と活動のつながりづくりを応援する



# にしとも広場

心惹かれて  
～はじまりはココから Part.2～

2019  
13号



はじまりは  
ココから  
Part.2

どうして今の活動が始まったの？なぜこの場所で活動しているの？にしとも広場スタッフが気になったあの人に会いに行きました。今号も、はじまりの物語を紐解いていきます。「この活動に参加してみたい！」という方からのご連絡をおまちしています。(にしとも広場：045-620-6624)

※「にしとも広場 12号」(2018年9月発行)もぜひ、ご覧ください。



子育て支援  
名探偵になって  
「自分」を見つける場所!



日本語教室  
世界と繋がるって楽しい!



NPO 法人 シャーロックホームズ

〒220-0002  
横浜市西区南軽井沢 18-1  
南軽井沢パークサイド 110  
Tel : 045-324-5033  
HP : <http://sherlock.jp/>

p3

Friends にし

活動場所①: 西地区センター  
毎週火曜日 午後 7:00~午後 8:30(夜間)  
活動場所②: 横浜市西区福祉保健活動拠点  
「フクシア(ふくしあ)」3階  
毎週木曜日 午前 10:00~午前 11:30  
午後 3:00~午後 4:30  
Tel : 045-311-0094(代表 高橋さん)  
HP : <http://adelie.jp/friendsnishi/index.html>

p4

在宅訪問支援  
長く続く日々の  
「ほっと一息」のために

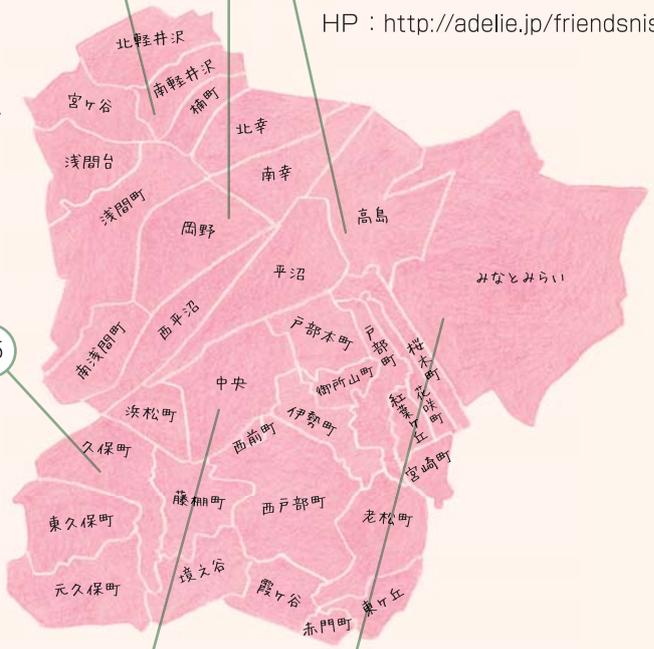


NPO 法人  
レスパイト・ケアサービス萌

〒220-0061  
横浜市西区久保町 4-12  
三ツ矢ビル 3階  
Tel : 045-231-1681  
E-mail : [respite-moe@titan.ocn.ne.jp](mailto:respite-moe@titan.ocn.ne.jp)



p5



水墨画  
自分らしく  
自由に楽しむ



吉田 紅峯 (よしだこうほう)

西区街の名人・達人登録  
問合せ先: にしく市民活動支援センター  
“にしとも広場”

p6

ガイドボランティア  
横浜の奥深さに  
魅了されました



にしくシティガイドグループ

西区街の名人・達人登録  
問合せ先: にしく市民活動支援センター  
“にしとも広場”

p7

# 名探偵になって 「自分」を見つける場所！

NPO 法人 シャーロックホームズ



理事長  
東 恵子(あずまけいこ)さん

横浜駅からバスで5分、南軽井沢にある、居場所・交流・学びの機会を提供する NPO 法人シャーロックホームズ。「シャーロックホームズ」という名前に込められた想いも含め、現理事長の東恵子さんにお話を伺いました。

## 名探偵になって、 自分にとっての「何か」を 探しにいく

設立代表者の今井嘉江さんは、電話相談員やスクールカウンセラーなど、青少年の支援に関わってきました。ご近所で助け合うことが当たり前の環境で育った今井さんは、1998年に自宅を改装した際、3階に地域の居場所として、「シャーロックホームズ」を創りました。

シャーロックホームズは名探偵です。その名をつけたのは、「この場所に関わり合う人たちと、名探偵のように、必要な何かを探していく力をつけていって欲しい」という思いからでした。今井さんたちは、青少年の交流の場としてだけでなく、就学・就労、不登校や引きこもり当事者からの相談などを、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、行ってきましたが、その支援の中で、幼少期からの親子関係の大切さを実感し、子育てへの支援も始めていきました。



## 東さんと シャーロックホームズとの出会い

一方、東さんには2003年に第1子が誕生していました。横浜市に子育てサイトが少ないことに気がつき、自分が調べた子育て情報を、ブログで発信し始めました。そんな中、「子育てマッププロジェクト」の代表になっていた今井さんにつながる機会が訪れます。

そして、事務局兼情報発信担当として、関わっていくことになりました。

## シャーロックホームズが 探しつづけるもの

今井さんから理事長の座を引き継いだ東さんは、今の子育てに必要なものを見つけ、子育てを多角的に支援していきたいと考えています。そのため、アンケートや現場から聞こえる声を大切に、しっかりとしたりサーチの中からニーズを探して、情報や企画につなげています。

「この地域は通勤族も多い。知らない地域で、気軽に立ち寄れる場所や地域の情報があることは、子育て中のママ・パパたちにとって、すごく大切なこと。利用していた人がスタッフになったり、成長した子どもたちがボランティアで来てくれたりと、関わり方は変わりながらも、それぞれの居場所として、シャーロックホームズがある」と東さんは話してくれました。

必要なニーズを探しながら、変化し続けるシャーロックホームズは、これからもみんなの居場所であり続けます。

(担当 藤崎)



# 世界と繋がるって 楽しい!

日本語教室 Friends にし



代表  
高橋 導徳(たかはしみちのり)さん

Friends にしは、日本に住む外国人のかたを対象に日本語教室を毎週火曜日と木曜日に行っています。代表の高橋さんと川端さんにお話を伺いました。

## ボランティア講座を きっかけに…

2007年に西区役所で「日本語教室ボランティア」養成講座が開催されました。当時、区内在住・在学外国人のネットワークや交流を行っていた「西区国際交流の会」が新しく日本語教室を設置しようとしていて、その動きの中での講座でした。受講生のほとんどはボランティア未経験者でしたが、区の後押しもあり、学んだことを活かそうと有志が集まり、講座終了後に「Friends にし」が誕生。設立2年目には区役所からも独り立ちし、助成金も活用しながら走り出しました。

Friends にしでは、タイ、ベトナム、中国、台湾、オランダ、韓国系アメリカ人など、様々な国の方を受け入れています。日本語を学びたい理由も様々で、「留学で日本に来たが、ずっと日本で働きたい」「国際結婚したので日本の文化に早く慣れたい」「日本語検定を受験できるよう勉強したい」……。学習者は30代が多く、わからない言葉が出てきたらスマホで翻訳しつつ、学習を進めています。

教室では、定期的な学習会のほか、掃部山公園での花見、ビール工場見学、各国の料理教室など、一緒に出掛けて体験するイベントをメンバー・学習者皆で企画しています。

ひとりひとりのレベルにあった教材で  
学習を進めている



取材時も、新しい学習者が参加していました。「ボランティア・学習者ともに募集しています」と川端さん。

中心メンバーの高橋さんと川端さんは、お二人ともなんとアラウンド80歳。最近新メンバーとなった60代の方に、今後の期待を寄せています。

## 住んだ国の言葉を学んでいく 楽しさを知っているからこそ。

代表の高橋さんは、現役時代、自動制御機器メーカーのエンジニアとして、世界中を飛び回っていました。英語、ドイツ語、中国語、スペイン語、韓国語……。その国の言葉が分からないから「困る」のではなく、どうしたら「習えるか」を考えて、その土地その土地の言語を身に着けました。言語を習得し、「その国の人とコミュニケーションをとることが何より楽しかった」そうです。「今思うと、退職後に自分の居場所ができたこと、得意なことを活かしたことが有難かった。日本にいながら世界に繋がっているこの活動は、楽しいしやりがいもある」と高橋さん。これからも、新しく日本にやってきた方の「日本語を話したい!」気持ちに寄り添います。

(担当 山田)

# 長く続く日々の 「ほっと一息」のために

NPO 法人 レスパイト・ケアサービス萌



スタッフ  
溝田 涼子(みぞたりょうこ)さん(左)  
関水 好子(せきみずよしこ)さん(右)

NPO 法人レスパイト・ケアサービス萌は、障がいのある子を 24 時間見守る家族が、一時的にでも介護から解放され、休息がとれるようにと、小児専門の在宅訪問支援を行っています。活動を始めるのに、どんなきっかけがあったのかお話を伺いました。

## 隣から聞こえたつづやき

今から 15 年前、代表の田中さんは病院の外に来ていました。たまたま田中さんの隣に座っていたお母さんが「この子の世話で、兄弟の運動会に行てあげることができない」とつぶやいたのを聞いて、「じゃあ、預かりましょうか?」と、声をかけました。

「ずっとお母さんがいてくれた!」母親が運動会に来てくれたことを喜ぶ子どもと、それを見て嬉しそうにほほ笑む母親をみて、看護師の資格を持つ田中さんは、友達と一緒に障がい児と家族を支援するボランティア活動を始めました。

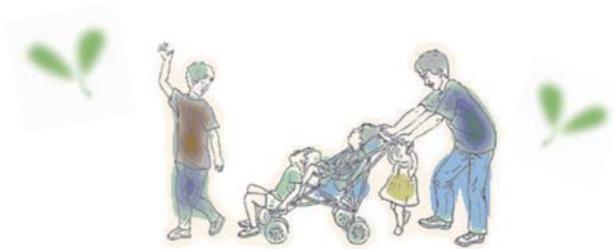
なぜならば、田中さん自身も、障がいを持つ子どもを育て、こんなサービスがあればと強く願っていた一人だったからです。

有償ボランティアという形をとり、自分たちが対応できることは何でも引き受けました。お母さん達のネットワークで情報が広がり、瞬く間に利用希望者が増えました。

スタッフが足りなくなり、自分たちの思いに共感して一緒に活動してくれる人たちを新聞広告で呼びかけたところ、看護師、保育士の方たちを含め沢山



NPO 設立 15 周年の記念写真



の応募がありました。この有償ボランティアは 8 年続きましたが、利用料などの負担を軽減するには法人格を取り、訪問看護や障害福祉サービス事業所として対応した方が良いと考え、平成 15 年に NPO 法人レスパイト・ケアサービス萌となりました。

## ほっと一息してほしい!



レスパイト・ケアサービス萌は、横浜市全域を活動範囲とし、「訪問看護事業」「障害福祉サービス事業」という医療+障害の支援と共に、「ボランティア事業」を設置しています。現行の支援では対応しきれない部分を、「できない」で終わらせず、できる限りサポートするための「ボランティア事業」です。

どんな時でも「その人らしく生きる」。それは、障がいを持った人だけでなく、ご家族一人ひとりにも言えることです。24 時間、絶え間なく「命」と向き合うご本人やご家族を、出来る限り支えたい。「長く続く日々の介護で余裕が無くなってしまいう前に、私達に声をかけて欲しい。ほっと一息ついて、そして一緒に歩いて行きましょう」。関水さん、溝田さんのお話には、スタッフ皆さんの、家族を支えたいという強い思いと、温かな気持ちが溢れていました。

(担当 藤崎)

# 自分らしく 自由に楽しむ

水墨画 吉田 紅峯さん



吉田 紅峯(よしだこうほう)さん



にしとも広場事業「来て・見て・聞いての日」水墨画講座  
お手本を見ながら気軽に体験できると好評。

「西区街の名人・達人」に、水墨画で登録されている吉田紅峯さん。優しい雰囲気の吉田さんですが、その作品は、凛とした美しさから、圧倒されるほど力強いものまで幅広く魅力的です。吉田さんが水墨画を始めたきっかけや、活動に対する思いについて伺いました。

## きっかけは、たまたま…

下のお子さんが保育園に入ったのをきっかけに、軽い気持ちで始めた水墨画でした。本当は水彩画を習いたかったのですが、予定が合わず、試しに水墨画に参加したものの、若い人がとても少なく、続けるかどうか迷いました。しかし、先生から、「あなたは向いているから、是非続けて、先生になりなさい」と強く勧められ、そのまま習い続けることになりました。

吉田さんを水墨画の道へ導いてくれた先生が亡くなり、新しく習った先生は、港南区のボランティア「街の先生」に登録していました。先生から勧められるがままに「西区街の名人・達人」へ登録。

登録してから数年が経ち、依頼を受けて、放課後キッズや小学校で教えることになりました。老人ホームでの教室も始まり、活動の場が増えていきました。

## 「自分らしく」を自由に楽しむ

「自分からこうしたいと動いたことはほとんどあ

りません。周りから誘われたり、頼まれたりしたことを、断るのではなく、どうやったらできるかを考えました」と吉田さんは話します。

無理をせず、一步一步進んできて、気が付いたら教える立場の“今”になっていました。

吉田さんは、子どもたちに水墨画を教える時、自分が描きたいものを、描きたいように描くことを大切にしています。周りに迷惑をかけないように描くよう伝えるぐらいで、絵について注意することはありません。

描いた後には発表の場を設け、上手く出来たところ、工夫したところを、子どもたちが自分で考えて発表します。「誰だって頑張ったことを認めてもらいたい。そして、何を頑張ったか、自分で人に伝えることも大切」と吉田さん。

子どもたちの成長を温かく見守り、のびのびと水墨画を楽しんで欲しいと考えるのは、吉田さん自身が、自然体で物事に向き合う人だからかもしれません。

先日、音楽コンサートを開催するので、童謡の音や歌詞からイメージした水墨画を描いてほしいという依頼がありました。「今まで“イメージ”を水墨画にしたことがなかったので、最初は戸惑ったけれど、やってみると、とても楽しい作業だった」と振り返ります。

吉田さんは、これからも自分らしく、好きな水墨画を続けていきたいと考えています。

(担当 藤崎)

# 横浜の奥深さに 魅了されました にしくシティガイドグループ



渡辺 恵市郎(わたなべけいいちろう)さん



ガイド養成講座 実地訓練の様子

「にしくシティガイドグループ」は、西区役所主催講座「まち歩きボランティアガイド養成講座『わが町、西区を知る』」をきっかけに立ち上がった団体です。2017年度に講座を修了した受講生が中心となり、2019年1月にグループ化しました。団体の中心メンバーである渡辺恵市郎さんに、ガイドボランティアの魅力とグループの立ち上げについて伺いました。

## きょういく・ きょうようのススメ

渡辺さんは、プラントエンジニアとしてビジネスの世界で様々な経験を積み、2016年12月に退職、自由を謳歌していました。就職してからずっと住んでいた横浜でしたが、実は横浜のことをあまり知らないと思い立ち、一人でまち歩きを楽しみ、歴史の本を読んで勉強していました。そんな渡辺さんを見て奥さんが内緒で申し込んだのが「わが町、西区を知る」講座でした。合唱、エアロビ、体操などアクティブに過ごす奥さんに「今日いくところ・今日用事があること(きょういく・きょうよう)が大事なよ!」と背中を押され、ちょっと面白そうかなと思い講座に参加しました。

## ガイドが紡ぐ 無数に広がるストーリー

講座では、8回のプログラムで講義とガイドの練習を行いました。講師たちの熱意と愛情のこもった講義がとても印象に残っているそうです。渡辺さん自身、20代はプレゼンテーションがとても苦手で、ビジネスの必要上、「伝え方」について学び、必死に身に付けたそうです。自分が思っていることを伝えたい、その想いに聴き手は惹かれると実感するようになりました。「今、ガイドボランティアでも、その気持ちは変わりません」と渡辺さん。

同じスポットでも、ガイドする仲間によって紡ぐストーリーは多様です。仕事と違い、年齢、キャリア、背景が異なる「にしくシティガイドグループ」の仲間たち。「お互い異なる立場のなかでどう理解してみんなでうまくやっていけるか、これからもギャップを楽しみながら乗り越えていきたいですね」。

## 今からここから! まずは自分が楽しんで伝えたい

柔らかな口調でお話ししてくれた渡辺さん。ガイドボランティアの実践では、奥さんから「まだまだ笑顔が足りません!」と言われているそうです。これからは、まずは自分が楽しんで、まだまだ知られていない横浜の魅力を伝えていきます。

(担当 山田)



## にしとも広場の使い方

### にしとも広場のギャラリーコーナー

「西区街の名人・達人」や登録グループが作品を展示するコーナーです。



#### 小箱ギャラリー

折り紙やトルペイントの飾り物など、様々な立体作品を展示します。



#### 壁面ギャラリー

絵や写真など平面作品を展示します。



ギャラリーコーナーの作品の前では、「どんな方が作られたんですか?」「私もこれを作りたい!」そんな会話が生まれています。作品をきっかけに、何かが始まるかもしれません。まさに、にしとも広場での「はじまりはココから」です。展示作品募集中です!いつでもお気軽にお問合せください。

## 編集後記

12号13号では、活動の「はじまり」のお話をお聞きしました。取材の終わり際、今までを振り返る機会になったと嬉しい声をかけていただきました。取材する私たちも当時の熱い思いに触れ、ますます活動のファンになりました。

ぜひみなさんの活動の原点をお聞かせくださいね。  
(にしとも広場スタッフ一同)

にしとも広場14号は、  
9月発行予定です。  
お楽しみに!

にしとも広場は、  
土・日曜日、祝日も  
開館しています  
(水曜日休館)



### “にしとも広場”ってどんなところ?

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。ぜひ一度お立ち寄りください。



にしく市民活動支援センター  
**にしとも広場**

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま  
TEL/FAX：045-620-6624

- Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
- ホームページ <http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/>
- 住所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階
- 開館時間 9:00~17:00  
休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29~1/3)
- アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分  
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分

